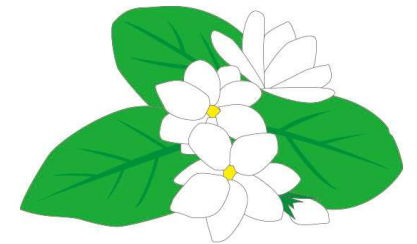


外国人介護職員の採用に際し 準備することリスト

ICHIGOICIE CONSULTING, Inc.



目次

A thick yellow horizontal bar spans the width of the slide, with a vertical yellow line extending downwards from its right end.

- ①日本語習得面の準備
- ②業務面での準備
- ③生活面の準備

日本語習得面の準備

～ベースとなる体制の整備～

施策① 説明会の実施



施策② やさしい日本語研修



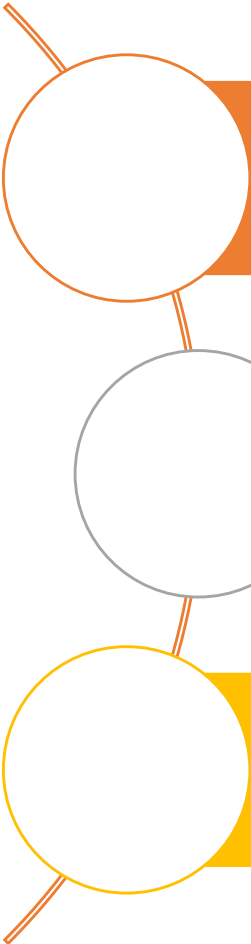
施策③ ランチ会



現場職員の温度を合わせることが肝！

日本語習得面の準備

～学習機会を提供する～



業務時間内の学習環境、時間の確保

業務日誌のSNS投稿、指導員との交換日誌

試験対策講座の実施、E-ラーニングの提供



日本語習得面の準備 ～教育者を確保する～

教育者の確保

地域の日本語研修を活用
(ex.自治体、地域センター、
ボランティア)

自治体の教育助成金・教育
プログラムを活用

職員が日本語教師養成講
座で、教育方法を習得

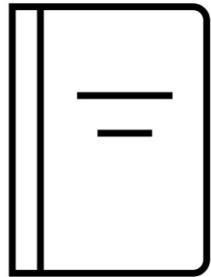
日本語習得面の準備 まとめ

課題	解決方法
ベースとなる体制の整備	現場職員を巻き込む（外国人労働者受け入れサポートチームを結成・・・会社全体でサポートする仕組みを作る）
	受入前の説明会の実施する
	非日本語ネイティブにも伝わりやすい話し方の研修（やさしい日本語）を行う
	いつでも質問・相談できる雰囲気を作る
	現場職員には休憩中も外国人材と積極的に交流するように促す(ex.ランチ会など)
	会議体を見直す(ex.外国人材が参加しやすいように現場職員に促す) = 仲間意識
学習機会を提供する	学習環境、学習時間を確保する
	試験対策講座を実施する（オンラインの講座を提供等）
	方言ワークショップを実施する
	業務日誌の記載、指導員との交換日誌をする
	SNSグループに投稿する
	休憩中も多様なテーマで会話する
	会議に参加させ、現場で使う日本語に触れさせる
	eラーニングを活用する（有料・無料の学習ツールを活用する）
教育者を確保する	職員が日本語教師養成講座で、教育方法を習得する
	自治体の教育助成金・教育プログラムを活用する
	地域の日本語研修を活用（ex.自治体、地域センター、ボランティア）する

業務面での準備

～育成体制を準備する～

マニュアル等の見える化・
多言語化

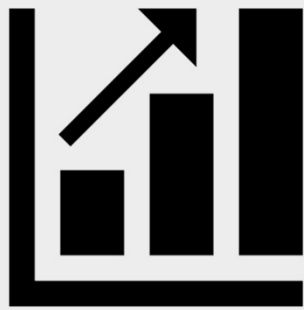


「技術・プロセス」だけでなく
「目的」も伝える

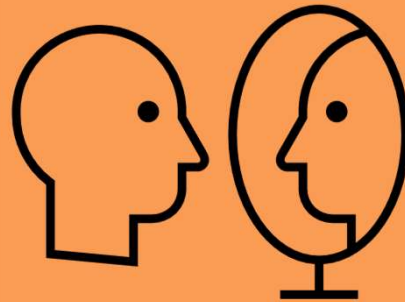
業務面での準備

～モチベーションマネジメントの仕組みづくり～

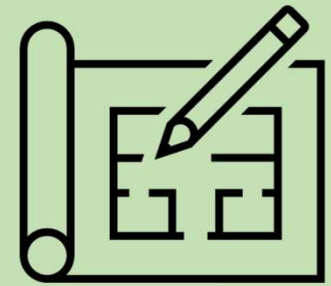
施策①
目標設定



施策②
業務の振り返りとフィードバック



施策③
学びたいことの支援



公平でわかりやすい評価システムが効果的

業務面での準備 まとめ

課題	解決方法
育成体制を準備する	マニュアル等の見える化・多言語化する（日本人職員は、感覚や慣れでやっているところがあるため、外国人介護職員に言葉で説明してもなかなか伝わらない）
	スキル細分化する（スキルを項目ごとに細分化し、段階的に教育を行う）
	「基礎」から「応用」を意識する（教科書だけではなく、状況に応じた対応も教育）
	「技術・プロセス」だけでなく「目的」も伝える（技術とプロセスだけではなく、行為の目的と経緯を説明するように意識する）
モチベーションマネジメントの仕組みづくり	目標設定（定期面談により、目指すべき姿を明確にする）
	学びたいことを支援する（本人の「学びたいこと」と受入れ企業の「学ばせたいこと」を明確にし、すり合わせる）
	褒める（注意点だけではなく、よく出来た点を褒めることで達成感につなげる）
	公平な評価をする（日本人と同一基準で評価を行い、キャリアアップ・昇給の機会も公平に与える）
	フィードバック（理解度の確認 問いかけや復唱によって正しく具体的に行動できるかを確認する）
	業務の振り返り（指示した内容と実施内容をもとに成果を確認する）
	定期的なレベル確認（達成度をチェックし、レベルに応じてプログラムを見直す）
ツールの活用	スマートフォンで自己学習できる教材を準備する
	翻訳ツール等、ITツールの活用を検討する
リスクマネジメント	感染症対策やインシデント・アクシデント対応マニュアルなどについては母国語を併記する
	ヒヤリハット報告書の活用を徹底する

生活面の準備

☑ 専属のメンターを決める

☑ 生活環境の整備（借り上寮の確保/生活必要品の用意/通信環境の整備 * Wi-Fiは必須）

☑ 外国人材が地域を知るための活動（世界の料理教室、スポーツ大会、地域ボランティア活動等）

☑ レジャーの提供（BBQ、釣り、フルーツ狩り等の地域レジャー情報）

☑ 日本文化体験（日本舞踊、着物教室、書道等の地域に根付く伝統文化案内）



生活面の準備 まとめ

課題	解決方法
職場環境を整備する	異文化理解講座のワークショップ（カルチャーマップを用いて各国と日本のギャップを比較）を開催し、外国人材への「理解」と「尊重」を持つ準備をする
	専属メンターを決める
	インフォーマル支援体制を活用する（同国職員、日本人職員、先輩外国人労働者からのインフォーマルな支援を得られるようにする＝相談相手を複数もつことは重要）
	懇親会の開催など業務外時間の共有により信頼関係を構築する
日常生活面でのサポートを準備する	生活環境の整備（借り上げ寮の確保/生活必要品の用意/通信環境の整備＊Wi-Fiは必須）
	移動手段の支援（自転車の貸与、通勤手段の確保）
	慣れるまで電車の乗り換えに同行（休暇・余暇の時間に名所案内等）
	健康・安全の確保（保険の加入と活用/医療機関の受診説明や同行/医療通訳の利用）
多文化共生の観点から地域への地ならしを行う	まずは外国人の受入れに関し、地域住民に対する周知を徹底する
	地域住民向けに異文化理解講座のワークショップを開催し、地域との相互理解を深める活動を行う
	外国人材が地域を知るための活動（ex.世界の料理教室などの取組や地域農家との交流、スポーツ大会、ボランティア活動）を行う
	外国人材に地域特性やルールの説明を行う
	これらを多言語で行う情報提供・相談体制を充実させる（地域行政に相談）
余暇を通じて日本の文化を知る機会を提供する	レジャーの提供（BBQや釣り、フルーツ狩りなどのレジャー情報提供を行う）
	日本文化体験（日本舞踊、着物教室など、地域や日本伝統文化を案内する）
	＊様々な体験・経験からくる文化理解は日本語学習を支えるものとなる